

新年のごあいさつ

誰一人取り残さない 共生社会を目指して



八頭町長 吉田 英人

新年明けまして、おめでとうございます。

コロナ禍が落ち着きを見せる中で迎える年末年始となりましたが、町民の皆様方には、ご健勝で輝かしい令和4年の初春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

昨年は、大雪とコロナ禍での年明けとなりました。新型コロナウイルス感染症が拡大する中、外出やイベントの開催が制限されたことにより、人や物の交流、経済活動が停滞し、飲食・宿泊・観光・農林業、交通事業などが大きな打撃を受けました。

4月19日から開始した新型コロナワクチン接種については、町内医療機関のご協力のもと、町民の皆様方

が安心安全かつ円滑に接種できる体制で実施してきました。また、国の3回目のワクチン接種の決定に基づき、12月から医療従事者の接種が始まっており、町民の皆様方につきましては、令和4年1月中旬より実施できるよう準備を進めています。

国内の感染状況が落ち着き、ようやく、人・物・経済活動が回復しつつありますが、依然として厳しい社会状況にあることから、町としても、国・県と連携して、ウィズコロナ時代に対応するため、引き続き発想の転換と工夫により事業や生活・暮らしの支援を実施していきます。

さて、昨年の八頭町を振り返ってみますと、八東ふるさとの森が4月にリニューアルオープンしました。「もう一度、森と生きる」をコンセプトに、新感覚のアクティビティの導入と合わせて、地球規模の課題であるSDGsを学ぶ環境教育の場としての取り組みが始まっています。この取り組みを地域全体に広げ、新たな観光需要の創出につなげていきたいと思えます。

八頭町の次代を担う子どもたちの活躍も、町民に感動と希望を与えてくれる明るい話題となりました。8月に埼玉県で開催された「第51回全日本中学生ホッケー選手権大会」に八頭中学校がアベック出場し、男子ホッケー部が見事全国の頂点に立ちました。同部からは、15歳以下のジュニアユースホッケー日本代表メンバーに男女合わせて6人が選出されています。また、八頭中学校女子駅伝部は、県大会を制覇し、全国大会で激走を見せてくれました。

そして、隼L&Gを運営するシーセブンハヤブサ、鳥取銀行、八頭町の三者で、共通目標である「持続可能な未来の田舎（まち）づくり」に向けた連携協定を10月に締結し、プロジェクトの第一弾となるドローンを使った災害時の物資輸送の実証実験を行いました。まだまだ課題は多いですが、中山間地域における近未来の物流の可能性を探り、持続可能なまちづくりを目指します。

このたびのコロナ禍は、私たちの日常生活に潜在している様々な課題を浮き彫りにしました。その中でも人と人とのつながりや交流が希薄になることで、これまで築いてきた地域や様々な分野でのコミュニケーションが停滞・衰退していく事態が懸念されます。こうした社会の閉塞感を打破

し、将来に向かって誰もが希望に満ちあふれ、安心して暮らせる地域社会を築いていくことが、私に課せられた使命であると考えています。

コロナ禍を経験した私たちは、多くの変革の必要性に直面していることを認識しなければなりません。それは、「新しい生活様式」への移行、DX（デジタル技術を活用した課題の解決）の推進、働き方改革、気候変動を食い止めるための脱炭素社会への転換などです。このため、以前の生活に戻すことを目指すだけでなく、様々な変革にチャレンジすることにより持続可能なまちづくりを推進していきたいと思えます。

人口減少・少子高齢化、さらに新型コロナウイルス感染症という未曾有の国難に直面し、私たちは、「地域」「家族」「自己」といったことを見つめ直す、厳しくともかけがえない「場」と「時」に向き合っています。新型コロナウイルスを克服し、八頭町に暮らす誰一人取り残さない共生社会の実現を、町民の皆様方とともに進めてまいりたいと考えていますので、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

年頭にあたり、新しい年が町民の皆様にとりまして、健康で幸多き飛躍の年となりますようご祈念申し上げます。新年のごあいさついたします。

